

市民病院ニュース

Higashimatsuyama Municipal Hospital
東松山市立市民病院
〒355-0005 埼玉県東松山市大字松山2392番地
TEL:0493-24-6111 FAX:0493-22-0887

News from Municipal Hospital

第5号



～南館がオープンしました!～

昨年1月から工事を進めてまいりました本館の建て替えが完了し、ゴールデンウィーク後半の5月6日から、名称を「南館」に改め、新装オープンしました。

これにより地震への備えが整ったほか、外来や健診・人間ドックの待合やトイレなども明るく、使いやすくなりました。

今後は引き続き、残っている旧本館の解体を行い、その跡地も含め、駐車場の整備などを進めます。併せて、今まで新館と呼んでいた5階建の本館の全面的な改修を行うための設計業務を進めます。

皆様には、ご不便をおかけする場合もあるかと存じますが、引き続きご理解とご協力の程お願い申し上げます。

Contents

2025年に向けた市民病院の取り組み	P2
市民病院 看護部です!	P5
平成27年度の取り組み状況	P6
外来担当医表	P8

2025年に向けた 市民病院の取り組み

世界に類を見ないスピードで超高齢社会に突入した現在、医療のニーズは年々増大し、戦後日本の経済成長をけん引してきた団塊の世代と呼ばれる皆さんが75歳以上となる2025年にピークを迎えるものと見込まれています。

一昨年の6月には、医療法が改正され、都道府県が中心となって地域医療構想を新たに策定し、医師や看護師をはじめ、限りある医療資源を最大限に活用することで、目前に迫った2025年を乗り切るための体制を整えることがそれぞれの地域の緊急課題となりました。

現在、人口当たりの医師数が全国で最も少ない埼玉県においても、県内10の2次医療圏毎に急性期や回復期、慢性期などの病院の役割に応じて、それぞれ必要と見込まれるベッド数などを定めた原案が取りまとめられたところ です。

こうした中、市民病院は、今後自らが地域で果たすべき役割を明確化しながら、市内はもとより埼玉医科大学病院や埼玉医科大学総合医療センター(川越市)、小川赤十字病院などの川越・比企の2次医療圏に属する他の医療機関との連携や分担を進めていくことが求められています。

そのため、当院では、予防医療の充実を通じた健康寿命の延伸と、増大する高齢者の医療ニーズへの的確な対応を2つの柱としながら、ソフト・ハード両面から病院の機能の充実に取り組んできました。

まず、ソフト面としては、森田市長と森野院長が日本大学医学部をはじめ、埼玉医科大学の3病院を繰り返し訪問し、学部長や病院長、各診療科の教授と面会し、市民病院の取り組み状況や課題を報告しながら、新たな医師派遣への協力要請を続けてきました。

その結果、認知症や白内障など高齢者特有の疾病に対応するため、神経内科医の招聘や眼科医の増員を図ったほか、リハビリテーションスタッフなど医療技術職の充実を併せて図ったところです。

また、ハード面については、耐震性の十分でない日本館の改築に当たっては、予防医療のいっそうの推進を図るため、人間ドック・健診室の設備・機器の充実を主眼の一つとしたところです。

当然ながら、取り組みはまだ道半ばであり、来たるべき2025年に向けて、今後も引き続き診療体制の充実と医療の質の向上を進めます。

医 師

内 科

4月から、毎週月曜日に埼玉医科大学総合医療センター神経内科の医師2名が交替で勤務し、午前中の外来診療を行っています。

外 科

4月から、埼玉医科大学総合医療センター消化管・一般外科の石田教授が毎月1回第3金曜日に「大腸・肛門外来」を開設しています。

眼 科

1月から、新たな医師が着任し、2名体制となりました。これにより、白内障などの手術を受けるまでお待ちいただく期間が短くなりました。

耳鼻咽喉科

6月から、日本大学医学部の医師が、毎週月曜日と木曜日の2日間勤務し、2名体制で午前中の外来診療を行っています。

麻酔科

6月から、これまで麻酔科医が不在となっていた月曜日に勤務が可能で、必要な場合に手術が行えるようになりました。



薬剤科



昨年1名を増員し、現在当科には4名の薬剤師が在籍しています。

これにより、医師の処方に従って内服薬など調剤や注射薬のセットなどを行う基本的な業務に加えて、昨年からは本館の3階から5階までの各病棟に薬剤師を1名ずつ配置し、薬に関して医師や看護師のサポートを行うとともに、たくさんの薬を服用することの多い高齢の患者様を中心に、入院前から服用している持参薬なども含め、薬の飲み合わせによる副作用のチェック体制を強化しました。

また、薬剤管理指導業務も充実を図り、患者様が相談しやすい環境づくりにも努めています。

さらに、きらめき出前講座では薬剤師が直接地域にお伺いし、「薬剤の正しい使い方」などを分かり易くお伝えし、普及啓発にも努めています。

リハビリテーション科

リハビリテーションは、病気や怪我で低下した身体の機能の回復を促し、退院後の患者さんが住み慣れた地域や自宅で自分らしい暮らしを続けていただくように支援することが目的です。2025年問題を乗り切るためには、病院から在宅へと医療の軸足を移すことが不可欠といわれる中で、その役割は年々重要となっています。

この2年間で理学療法士3名、作業療法士1名、言語聴覚士1名を新たに採用し、現在当科には9名のスタッフが在籍しています。

理学療法士は、起き上がる、歩くといった基本的な機能を回復するためのリハビリを担当します。作業療法士は、食事や排せつ、入浴、着替え、移動など日常生活における具体的な動作ができるようにするためのリハビリを担当します。言語聴覚士は、言葉を理解する、話すといった機能、耳鼻咽喉科の医師や管理栄養士などと連携しながら、食べ物を飲み込む摂食機能を回復するためのリハビリを担当します。

それぞれのスタッフは、患者様の状態に応じて互いに連携しながら、生活全体を支えるためのリハビリを提供しています。

また、退院後の生活を安心して送っていただけるように、家族への介護指導を行うとともに、地域連携室と協力しながら、身近な医療機関や介護福祉サービスなどがスムーズに利用できるよう支援を行っています。



健診放射線科



当科には放射線部門と人間ドック・健診部門があります。病気の予防と診断の両面から、皆様のお役にたてるように日々努力をしています。

放射線部門

放射線部門には、女性の新人も含め、診療放射線技師が8名在籍し、CTやMRIを用いた断層撮影、エコーやマンモグラフィによる検査のほか、胸部や腹部、骨などの状態などを調べる検査を行っています。撮影した画像はデジタル化され、院内のネットワークを通じて電子カルテや専用モニターで見ることができます。

人間ドック健診部門



人間ドック健診室は、5月にオープンした南館の2階に移りました。これを機に、健診専用の検査装置を新たに導入し、従来は院内の移動をお願いし、外来の患者様に混じる形で受けていただいていた胸部のレントゲンや胃の造影検査、エコー検査などが、健診室内で行うことができるようになりました。

採血や採尿、心電図などの検査は、今までどおり本館の2階で行いますので、1日ドックの場合、全てをワンフロアで受けていただくことができます。

併せて、待合の椅子や更衣室のロッカー、さらには検査着も一新し、アメニティの向上を図りました。

皆様のご利用をお待ちしています。



当院の1日人間ドックは、CEA(消化器)、PSA(前立腺)、CA125(卵巣)、AFP(肝臓)といった腫瘍マーカーをはじめ、C型肝炎や甲状腺機能の検査などを含んだ充実した内容となっています。

臨床検査科

昨年、今年と2名を新たに採用し、現在当科には臨床検査技師9名が在籍しています。臨床検査技師の仕事は、様々な検査を通して患者様の身体の中で起きている目に見えない変化や兆候をキャッチし、数値やグラフ、画像など目に見える形に変えて患者様ご自身や担当する医師に提供することです。

検査科では大変幅広い内容を取り扱いますが、大きくは患者様から採取した血液、尿や便、細胞などを調べる検体検査と、患者様の身体を検査機器で直接調べ、心電図や脳波、超音波画像といったデータを得る生理機能検査に2分されます。

検査はデータの正確さが“命”です。臨床検査科では各自が血液学や生理学、細胞学などの専門学会に所属し、絶えず最新情報の収集や新たな技術の習得に努めています。



栄養科



当科には、現在管理栄養士2名が在籍し、入院されている患者様に提供する給食と栄養の管理のほか、入院・外来患者様への栄養指導を担当しています。

入院患者様にとって食事は治療の一環であり、楽しみにされている方も少なくないので、美味しく衛生的な給食の提供に心がけています。

特に近年は、患者様1人ひとりの生活条件や嗜好などに配慮した栄養指導が重視されていることから、糖尿病や腎臓病、脂質異常症、高血圧、心臓病などそれぞれの疾病に応じた食事指導を積極的に行っています。

市民病院 看護部です!

看護部の様々な取り組みをご紹介します。

◆災害支援ナースを熊本県に派遣しました!

震度7の地震が連続して発生した熊本県では、その後も余震活動が続いています。病院職員一同、被災した皆様に心よりお見舞い申し上げます。

市民病院では、日本看護協会からの要請により埼玉県看護協会に登録している災害支援ナース(※)のうち1名を熊本県に派遣しました。

5月29日から6月1日まで4日間、被害の大きかった益城町の福祉避難所で当直をしながら、地元の方々や全国各地から派遣されたスタッフとともに支援活動を行いました。

今回派遣された5A病棟の田熊主査は、被災地での経験を職場の仲間と共有したいという思いに駆られ、早速6月27日に病院職員を対象に報告会を開きました。

※災害支援ナースとは、所定の研修を修了し、災害が発生した際には、被災地の看護師を支援し、負担の軽減を図りながら、適切な医療・看護を提供することで被災者の健康維持の役割を担う看護職のことで、当院には災害支援ナースが6名います。



看護功労者表彰を受けた看護部長とともに支援活動を森田市長に報告!

65名が参加!



◆資格取得を進めています!

医療が年々専門高度化する中で、循環器内科や消化器外科といった“専門医”を取得した医師が、特定の分野の診療にあたるのと同様に、看護師についても感染管理や緩和ケアなど21の看護分野に関して専門性を身に付けた“認定看護師”が活躍する時代となっています。

また、看護部門は通常病院の中で最も多くのスタッフを抱えていますので、大きな組織を一つに束ねながら、1人ひとりが意欲と使命感を持って働くことのできる職場づくりを担うリーダーの存在が重要です。そのため、ファーストレベルからサードレベルまでの3段階の認定看護管理者という資格も設けられています。

市民病院では、勤務成績が良好でスキルアップの意欲の高い看護師に対して、勤務の免除や費用の負担を行い、資格取得を全面的に支援しています。

区分	平成27年度	平成28年度
認定看護師	糖尿病看護 1名修了 4階病棟の糸部副科長が1年間の教育課程を修了し、認定審査に合格しました。	感染管理 1名派遣中
認定看護管理者	ファーストレベル 2名修了	ファーストレベル 1名派遣中

認定看護師になるためには、職場を離れて1年間の研修を受けた後、試験に合格しなければなりません。ですので、本人の努力はもちろんのこと職場や家族の理解と協力が不可欠です。

◆看護部長が埼玉県知事から看護功労者表彰を受けました!

5月12日は、看護教育を体系化し、病院施設の基準づくりなどにも功績のあったフローレンス・ナイチンゲールの誕生日にちなみ、「看護の日」と定められています。また、前後の1週間は「看護週間」として催し物やキャンペーン活動が行われますが、その一環として5月

11日には、平成28年度の埼玉県看護功労者の表彰式があり、当院の原看護部長が上田知事から表彰を受けました。



◆看護研究にも取り組んでいます!

去る6月18日、日本手術看護学会の関東甲信越地区学会が横浜市で開催され、手術室所属の南主任が「短時間手術における手術患者の体温管理」について発表を行いました。



平成27年度の 取り組み状況

市民病院では、改革プランに基づき、平成24年度から平成26年度までの3年間、診療内容の充実と経営の立て直しに取り組み、一定の成果をあげることができましたが、まだまだ課題も少なくありません。

ここでは、平成27年度に引き続き取り組んだ成果をご報告します。

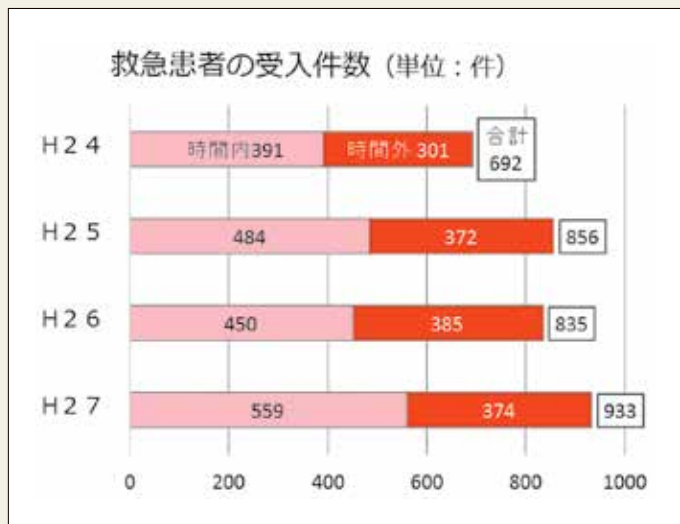
なお、市民病院では、総務省の新公立病院改革ガイドラインに基づき、今年の夏、埼玉県が策定する地域医療構想の内容も踏まえながら、来年の3月までに新たな改革プランを取りまとめ、市民から信頼され、選ばれる病院になることを目指し、さらに取り組みを進めていきます。

1 救急患者の受入件数

市民病院では救急指定病院の告示を取り戻し、平成26年10月から比企地域の2次救急医療の輪番制に復帰しました。

救急隊からの要請に基づく受入件数は、平成26年度はやや伸び悩みましたが、平成27年度は再び増加に転じ900件を超えました。

しかしながら、内訳をみると時間外の受入件数は頭打ちとなっており、市民の皆様の期待に十分にお応えできていない点が課題です。



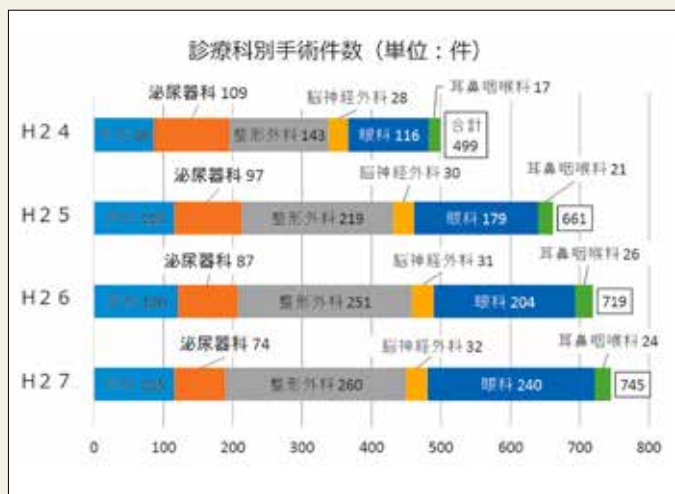
2 手術件数

外科系の医師の充実に伴い、手術件数は年々伸びてきていますが、常勤の麻酔科医1名という条件の下では、これ以上の増加は難しい状況です。

平成27年度は、1月から眼科の医師が2名体制となりました。白内障の手術などは眼科医だけで行えるため、眼科の手術件数が増加し、平成28年度はさらに増加が見込ま

れます。

患者様にとっても、手術までお待ちいただく期間が短くなるというメリットにつながります。



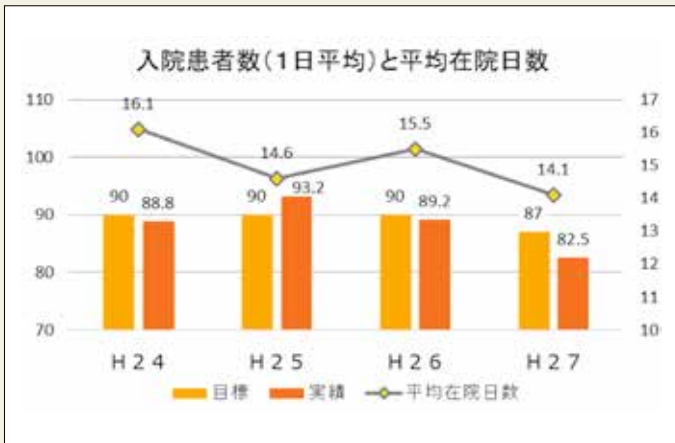
3 入院患者数

市民病院は、最も手厚い7対1の看護体制、すなわち患者様7人に対して看護師1名を配置する急性期病院です。

急性期病院の使命は、急病や交通事故などの患者の状態をいち早く安定させるために急性期の医療を提供することであり、患者の状態が一旦安定した場合は、回復期の医療を受け持つ病院などに速やかに委ね、入院期間をできるだけ短くすることが求められています。

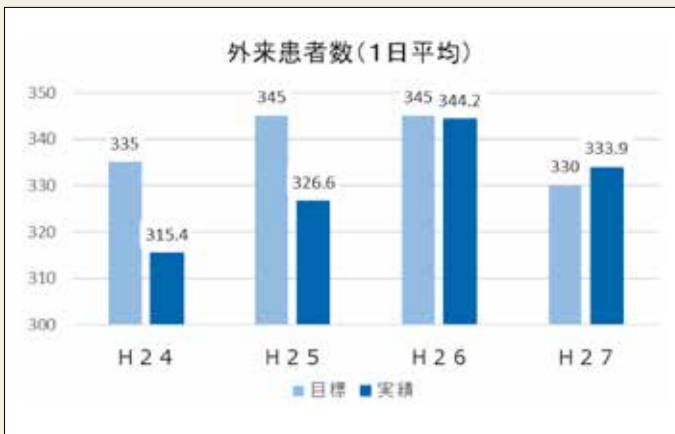
当院の平均在院日数は、平成26年度は15.5日といった伸びたように見えますが、これは白内障の手術のためなどで短い間入院する患者を除外するといった計算方法の変更によるもので、実質的には年々縮まっています。

平成27年度は、平均在院日数が14.1日とさらに短くなったことが、1日平均の入院患者数の減少を招く結果となり、目標の87人を下回り、82.5人となりました。



4 外来患者数

平成27年度は、改築工事の影響も考慮し、1日平均の外来患者数を330人と前年度に比べ抑え気味に設定しましたが、それを若干上回る333.9人という結果となりました。

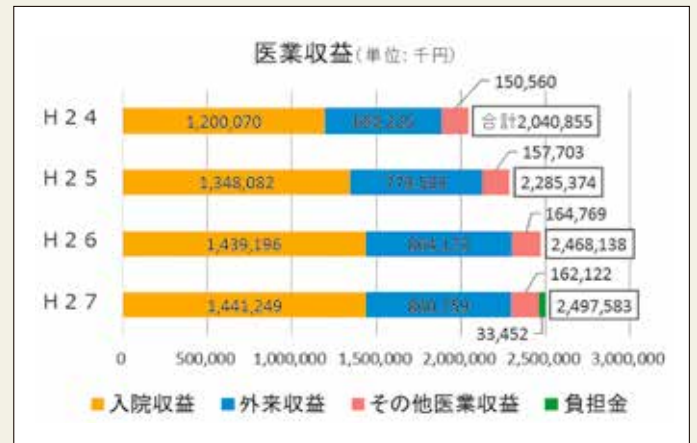


5 医業収益

医業収益は、市民病院のいわば“売上”に相当するものです。具体的には、入院及び外来の診療による収入のほか、健康診断や人間ドックの利用料金などその他の収入を合計したものです。

平成26年10月に比企地域の2次救急医療の輪番制に復帰したことから、それに伴う費用に関しても、平成27年度から市からの負担金として収入を得ることができるようになりました。

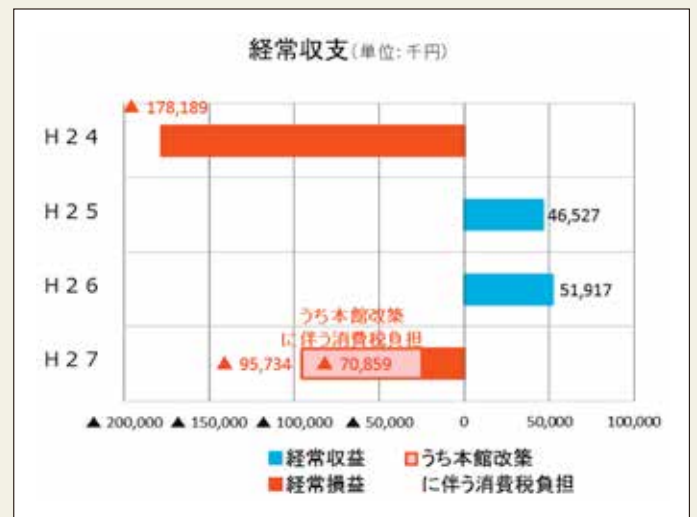
平成27年度も、引き続き医療スタッフの充実や医療機器の整備を進め、診療内容の充実を図りましたが、入院・外来とも患者数が前年度を下回ったため、市からの負担金を除いた場合、前年度に比べ、収益はほぼ横這いと言う結果となりました。



6 経常収支

平成25年度、平成26年度は9年ぶりにプラスとなりましたが、平成27年度は医業収益が伸び悩んだ反面、近年医療スタッフの充実や院内のシステムや機器の整備を進めたために経費が高んだ結果、9,500万円余りの赤字となりました。

しかし、そのうちの7,000万円余りは、本館改築工事にかかる消費税が、病院の売上である医療費に転嫁できないために、結果的に病院の負担となってしまうことによるマイナスで、それを除いた実質的な赤字は2,500万円弱となります。



今後は新たな改革プランを作成し、医療の質の向上を通じて収益性を高めるとともに、薬品や診療材料、外部への委託費用などの削減や効率化を図ることで、健全な経営の維持に努めます。

※平成27年度の医業収益、経常収支については、現時点での見込み額で、今後市議会で決算の認定を受けた後、はじめて確定するものです。

外来担当医表

市民病院では、**平日の午後・土曜日の午前**も診療を行っています!

2016年7月1日現在

		月	火	水	木	金	土
内科	午前	朱	朱		池田	朱	当番医
		樺沢		小林	樺沢	酒井	
		八木	八木	三浦	山本	八木	
		松村		山口	松村	松村	
		成川 (第1・3・5) 三井 (第2・4)	須賀原	須賀原	大崎	須賀原	
		池田					
外科	午前	岡田	石塚	石塚	岡田	石塚	当番医 (第2・4週のみ)
			額 額 (10:30~)		田中	石田 (第3週のみ)	
整形外科	午前	清水	清水	黒田	清水	清水 (予約のみ)	第1:三嶋 第2・4:当番医 第3:清水 第5:黒田
		三嶋	山崎 (第1週休診) 黒田 (第1週10:00~)	三嶋	根岸 (第1週休診) 三嶋 (第1週)	黒田	
脳神経外科	午前	白田	白田	白田			当番医
	午後			栗野	栗野	栗野	
小児科(注1)	午前	鈴木	鈴木	鈴木	森野	鈴木	鈴木 (初診・急患のみ)
	午後	鈴木	鈴木	鈴木	森野	鈴木(注2)	
皮膚科(注5)	午前		須山	佐藤		麻生	
眼科	午前	原	原		原	原	
			中安	中安	中安	中安	
	午後	(特殊検査のみ)	(特殊検査のみ)		(特殊検査のみ)	(特殊検査のみ)	
耳鼻咽喉科	午前	小川	小川	小川	小川	小川	
		矢部			矢部		
	午後	小川	小川	小川(注3)			
泌尿器科	午前	平野	桜井	船越	平野	船越	平野(注4) (第2・4週のみ)
		船越			長谷川	平野	
	午後	船越		船越 (第2・4週のみ)		平野	

(注1) 小児科の月・火・水・木曜日13:30~14:00は、一般予防接種を行っております。

(注2) 小児科の金曜日の午後外来は、保健センター等の事業のため休診になる場合があります。

(注3) 耳鼻咽喉科の水曜日の午後外来は、手術等の都合により休診になる場合があります。

(注4) 泌尿器科 第2・4週の土曜日の外来の初診受付は10時30分までです。

(注5) 皮膚科の外来受付は10時30分までです。